

水とともに暮らす

Living with the water

能登川町は水車がシンボルマークになっているほど、水の豊かな町です。
愛知川の伏流水や大同川、瓜生川の水が生活用水となり、田畑を潤し、
また地場産業を発達させてきました。

井戸と生活

昭和50年代に上水道が完備されるまで、一部の地域を除いては、ほとんどの家で井戸水が生活用水の中心になっていました。昭和30年(1955)の初め頃までは、つるべ井戸やガチャコンポンプが使われていましたが、後半になると電動ポンプが普及しました。



山からの「たり水」が流れ込む安楽寺の川

小川、躰光寺、垣見地区は掘るだけで良質の水が湧き出ます。伊庭や乙女浜は金気があり、須田、安楽寺や長勝寺の一部では掘っても水が出ないので山からの「たり水」を溜めて使っていました。同じ能登川でも、水脈によってこんなに違うものかと驚きます。

夏は冷たく、冬温かい井戸水は、いまもなお飲料水や風呂、植木や畑の水やりなど、さまざまに使われています。



上水揚水地点(長命寺沖の取水口)



黒金気井戸(新宮西)



金気井戸(乙女浜)